

G-8 家庭科施設からみた家庭科教育 —— 中学校の技術・家庭科の施設 ——

大阪教育大 新福祐子

目的 実践的学習を主体とする技術・家庭科の学習指導においては、施設設備と指導効果との関連は非常に深いものと考えられる。家庭科教育に対する考え方は、直接に家庭科室の施設の上に現われてくるものであると判断し、家庭科室の過去の実態を通して家庭科教育の性格・役割・本質などの変遷を追求し、将来の資料とするものである。

方法 今回の報告は、戦後中学校技術・家庭科（女子向）の標準的な施設として紹介されている資料を参考に検討を加えたものである。

結果 1) 中学校における家庭科施設は時代と共に社会的・地域的要求に応えながら歩んできたものである。畳敷の教室時代・土間形式の農村改善台所時代・ユニットキッチン時代などを作りあげてきたのはその現われであって、これは明らかにその時代の教育方針の産物と解釈できる。2) 教室設計の中に、調理室と被服室を隣接して設け、ひとりの教師が調理と被服を同時に指導できるように計画したものとか、被服と調理などの学習が同一室で行なえるような計画がある。このような家庭科室のプランができたのは、家庭科の教師の指導面の器用さと経営上の問題・合理化のえいきょうと考える。3) 裁縫室・割烹室意識の時代、生活改善という文化センター的役割を持っていた時代などそれぞれの特性があった。このような変遷過程は、いずれも過渡的なもののようである。